

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22592538

研究課題名(和文) 日米高齢者のスピリチュアリティに関する質的研究とスピリチュアリティ尺度開発

研究課題名(英文) Development of a cross-cultural measurement of spirituality based on a qualitative study on the spirituality of elderly Japanese and American individuals

研究代表者

今村 恵美子 (Imamura, Emiko)

千葉大学・看護学研究科・講師

研究者番号：50571337

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本とアメリカ合衆国の高齢者のスピリチュアリティと健康・健康増進の関係について調査し、日米で使用できるスピリチュアリティ尺度を開発することであった。31名の日米高齢者に対し半構造化インタビューを実施し結果をNVivo10にて解析、両国共通のコードを同定・統合し25項目を選定した。表面的妥当性を確認後、探索的因子分析(主因子法プロマックス回転)を実施し5因子19項目の尺度を開発した(回転後の累積寄与率：51.2%)。尺度の内的整合性を確認し、英語版尺度も作成した。今後の研究でさらに多様な対象者の意見を聴取し項目を充実させ、確認的因子分析を実施し尺度の信頼性と妥当性を高めたい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a cross-cultural measure of spirituality for Japanese and American elders. Based on Heuristic Inquiry, a semi open-ended questionnaire was developed. Using the questionnaire, semi-structural interviews were provided to 16 Japanese and 15 Caucasian community-residing elders in order to unveil perceptions and lived-experiences of spirituality and spirituality's influence on health and health promotion behaviors. Elders' narrative data were coded and integrated into 25 items by means of an NVivo program. Principal component analysis with promax rotation demonstrated a 19-item, five-factor solution accounting for 51.2% of the variance. Internal consistency was supported with Cronbach's alpha of .65-.87 for the items and .79 for the entire scale. To further improve the psychometric property of the scale, more interviews of elderly with diverse cultural backgrounds are required and a confirmatory factor analysis should be performed in future studies.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学、地域・老年看護学

キーワード：看護学 スピリチュアリティ 国際情報 高齢者 ヘルスプロモーション

## 1. 研究開始当初の背景

1999年、世界保健機関は「スピリチュアリティ」を「健康」の重要な要素として取り上げた<sup>1)</sup>。その後欧州やアメリカ合衆国(以下、米国)では研究が促進され、スピリチュアリティの高齢者の健康や健康行動推進への効果が多数報告されている。さらに米国ではスピリチュアリティを基盤とした看護：スピリチュアル・ケアが発展し、高齢者に対するより良い看護・医療の提供が行われている。このように、スピリチュアリティが高齢者の健康・健康増進行動に与える影響や効果を分析・検証することは、高齢者個人の健康の保持増進と生活の質の向上、延いては国家医療費の削減を図るために有益である。しかしわが国では、高齢者のスピリチュアリティと健康・ヘルスプロモーション(健康増進行動)との関係を分析・検証する研究はこれまで十分に行われていない。またスピリチュアリティを統合したケアや看護教育技法も開発されていない。

この問題は、日本に「スピリチュアリティと高齢者の健康・健康増進の関係」を説く理論・概念モデルが欠乏し、その関係を測るための「尺度」が不足していることに起因する。つまり、尺度の不足のため科学的研究が十分に実施されず、「高齢者の健康・健康増進におけるスピリチュアリティの効果」が看護・医療従事者に理解されず、そのためスピリチュアリティが看護教育と実践に導入されない状況が生じている。世界一の長寿国であり高齢化が加速する日本において、スピリチュアリティの意義を検証することは不可欠であり、従って「尺度」を開発することは今や必須の課題となっている。

さらに、これまで欧米諸国で様々なスピリチュアリティ尺度が開発されているが、「多国間で共用できる尺度」が認められない。しかしながら、スピリチュアリティは文化を超えた普遍的な概念である<sup>2)</sup>。このためスピリ

チュアリティの概念は、日本人だけでなく異なる宗教や文化を持つ人々の見解も包括し、国を越えたマクロな視点から分析される必要がある。そしてその分析に基づき、日本一国に限らず米国など様々な文化圏でも使用可能な尺度が開発されることが期待される。

## 2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、本研究は、日本と米国の高齢者の「スピリチュアリティ」のあり方を調査し、その結果に基づき日米で使用できる「スピリチュアリティ尺度」を開発することを目的とした。この目的に沿い、研究を以下の二部で構成した。

### (1) 日本と米国の高齢者の「スピリチュアリティ」のあり方の調査

日本と米国の高齢者のスピリチュアリティに対する認識や経験、健康やヘルスプロモーションとの関係についての意見を聞き取り質的に理解を深める。

### (2) スピリチュアリティ尺度の開発

質的調査で聴取した日米高齢者の意見を比較分析し、スピリチュアリティの共通要素を抽出し、因子分析等の処理を経て日米両国で使用できる「スピリチュアリティ尺度」を開発する。

以下に研究方法と成果を簡略に記述する。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究デザイン

発見的探求法(Heuristic Inquiry)に則り作成した質問票を使用した半構造化インタビュー(面接)による質的調査研究。

### (2) 研究対象者

日本人と米国人(ヨーロッパ系白人)の65歳以上の男女で、地域在住の自立・杖歩行が可能、かつ言語・認知力に異常のない方。

### (3) サンプルング方法

日本(順天堂大学・公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団)および米国(ミシガン大

学・スタンフォード大学・神学大学院連合大学)の研究協力者に対象者のリクルートを依頼し、さらにその対象者に知り合いや友人を紹介して貰い対象者を集める「スノーボールサンプリング法」を並行して研究対象者を確保した。

#### (4) インタビュー質問票の作成

ミシガン大学看護学部の研究協力者の助言を得、発見的探求法に則りインタビュー質問票を作成。文献検索を実施し質問項目を補足・修正。日本と米国で同様のインタビューを行うため質問票を英訳。研究協力者とともに項目の内容妥当性を確認した。

#### (5) 倫理的配慮

千葉大学看護学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した。各対象者に口頭及び書面にて研究の主旨を説明し「確認と同意書」を取得。インタビュー(今村が実施)は研究協力者に依頼しクオリティ・コントロールを実施した。

#### (6) データ分析

日本と米国でのインタビュー結果(ICレコーディング)は解析ソフトNVivo10にて分析し、研究協力者とともに両国の高齢者のインタビュー結果を比較検討した。

尺度開発には SPSS (PASW) Statistics 18.0 を使用し項目分析、因子分析、信頼性・妥当性の確認を実施した。有意水準は 5% (両側) とした。

### 4. 研究成果

#### (1) 日本と米国の高齢者の「スピリチュアリティ」のあり方の調査

対象者は、日本では東京都、米国ではカリフォルニア州、オハイオ州等の都市地域在住者 31 名であった。そのうち日本人は 16 名(男女各 8 名)、米国人は 15 名(男性 9 名、女性 6 名)で、平均年齢はそれぞれ 81.3 歳、78.4 歳であった。信仰宗教については、日本人の 6 人は仏教または神道、10 人が無宗教であったが、10 人の無宗教者も祖先供養や彼岸・盆

暮れの墓参り、念仏など神道・仏教的行動を習慣的に生活に取り入れていた。米国人は 15 人がキリスト教であった。半構造化インタビューは一人 1~1.5 時間で、対象者の自宅や研究所の静かな個室で実施した。

インタビューを通して、日米の高齢者がどのようにスピリチュアリティを捕らえているのか、スピリチュアリティと彼らの身体・精神・社会的健康やヘルスプロモーションとの関係について経験や意見を聞き取り、質的・内容的な概念理解を深めた。一般的な傾向として、米国人高齢者はスピリチュアリティを神様や自然、あるいはボランティア活動などと表現しそれらと自己との関係を語り、日本人高齢者は先祖、前世などの見えない力、さらに自分自身の内なる力、人の役に立つことなどと照らし合わせる方が多かった。そして両国の高齢者が共通して、これらとのつながりや関係が自己の健康を保持増進するために欠かせないことを語っていた。

#### (2) スピリチュアリティ尺度の開発

次に、以下の手順により「スピリチュアリティ尺度」を開発した。

インタビュー質的データの分析および質問項目の選定

解析ソフト NVivo10 にて日米高齢者の意見をコード化・分類した。日米両国で使用できる尺度を作成する為に、英語コードを日本語コードに変換し日本人高齢者と米国人高齢者のインタビュー結果を比較検討した。さらに日本人高齢者と米国人高齢者に共通した項目(同義・類似の概念)を同定・統合し計 25 項目を選定した。25 項目について日系アメリカ人高齢者 3 名とともに表面的妥当性を確認し表現を一部修正した。

#### データ分析と尺度の作成

選定した 25 項目について次の分析・確認を実施した。天井効果・床効果分析において偏りのある項目はなかった。構成概念妥当性の確認、選定項目の因子構造を知るために探

索的因子分析（主因子法プロマックス回転）を実施した。因子負荷量 0.4 以下の 6 項目を除外し、5 因子 19 項目の「スピリチュアリティ尺度」を開発した。5 因子を「崇高・大きな力の源とのつながり」、「他者との関係」、「意志力」、「人生の意味」、「守護の感覚」と命名した。回転後の累積寄与率は 51.2%であった。19 項目の項目-全体相関係数は  $r=0.42$ 、各因子間の相関係数は  $r=0.23\sim 0.59$  で有意な正の相関がみられた。また、クロンバッチ係数は各因子で  $0.65\sim 0.87$ 、尺度全体で  $0.79$  であり内的整合性が認められた。日本語の尺度は英訳し英語版尺度も作成した。

<今後の研究の課題>

以上により、日本と米国で使用できるスピリチュアリティ尺度が開発された。しかしながら本研究においては幾つかの課題がある。例えば質的調査のインタビュー対象者が日本・米国ともに限局された地域の住人で、宗教や教育水準等属性が類似しておりかつ少人数であった為、表出されたスピリチュアリティ概念が国民全体を反映したものではないこと、またデータの処理において日米高齢者の意見で同義・類似のものを統合した為もともとの概念の意味が損なわれたり、項目数の削減により因子の信頼性の低下を招いた可能性のあることである（例： $r=0.65$ ）。これらの課題を改善しより信頼性・妥当性の高い尺度にする為に、今後の研究では、より広範囲な地域でより多くの多様な属性の対象者から意見を聞き取り尺度の項目を充実させ、さらに確認的因子分析においても高いモデル適合度が確認できるよう尺度を精査する計画である。

<引用文献>

1) World Health Organization :  
Amendments to the Constitution.  
Fifty-Second World Health Assembly,  
Provisional agenda item 16. ANNEX 1 of the  
Document A52/24 : 1999.

2) Suzuki D : Japanese Spirituality . p.  
viii, Greenwood Press , 1972.

5 . 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 2 件)

Imamura E, Loveland-Cherry CJ, Whall AL, Seng J: Religiosity as a Predictor of Health Promotion Behaviors in Elderly Japanese. 10th International Family Nursing Conference, 305. Kyoto, June 27, 2011.

Grudzen M, Imamura E, Nakasone R: Ancestral Wisdom: Living, Caring and Dying in East Asia. American Society on Aging 2011 Annual Conference, 104, San Francisco, CA, USA. April 26, 2011.

[図書](計 1 件)

今村恵美子 : スピリチュアリティ . 正木治恵, 真田弘美 (編) 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは, 第 2 版, 南江堂, 132 138, 2013.

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

今村 恵美子 (IMAMURA, Emiko)

千葉大学・大学院看護学研究科・講師

研究者番号 : 5 0 5 7 1 3 3 7